

## 東京医療学院大学 保健医療学部

### 2025 年度 学校推薦型選抜入試 小論文問題

次の文章を読み、設問に答えなさい。

オーストリアの下院議員が、出席者が集まって議会の開会を宣言しようとしたとき、うっかり「閉会を宣言します」と言ってしまったというのです。

この会議は、難航が予想されていました。議長は「早く終わらせたい」と心の中で思っていたため、その願望がこうしたいい間違いをまねいた、とフロイトは分析しています。

うっかりの言い間違いは、単なる間違いと見過ごしてしまえば、それだけのことです。が、よく注意してみると、その人自身気づいていない、無意識の願望が表れているのです。

このような失敗を心理学では「<sup>きくご</sup>錯誤行為」と呼びます。本人が意識してやろうとしていることと、それを妨害しようとする無意識の意図が衝突して、こうした間違いを起こすと考えられているのです。

仕事のアポイントメントを聞き間違えたり書き間違えていた、などという場合も、無意識のうちに、「行きたくないなあ」という気持ちが働いていたからだといえるでしょう。

また、最初に断定しておきながら、あとから柔らかい発言に言い直した場合も、最初にいった方が本音です。周囲の反響を考えて言い直したもので、本人がいくら「つい口がすべって」といい訳をしても、口がすべったほうの言葉が、本当なのです。

こうした間違いが多い人は、本音で生きていない、抑圧の大きい人でしょう。常に本音を押し込めて、本音とは別の行動をしようとしているので、本音が反乱して、このように失敗の形をとって表に浮かびあがってくるのです。

(渋谷昌三著、外見だけで人を判断する技術、PHP 文庫、2013 年：一部改変)

#### 【設問】

設問 1 「本音で生きていない人」とはどのような人のことをいうと思いますか。150 字以内で述べなさい。

設問 2 著者の述べる「錯誤行為」をふまえ、あなたが今までに経験した「錯誤行為」について、具体例を示した上で、その失敗を防ぐための対策として何を行うべきだと思いますか。600 字以内で述べなさい。